「１２月　金ヶ嶽～葉原峠～風布　＋みかん狩り」

2012 年 7 月 8 日、月例ハイキング（鎌倉祇園山ハイキング）スタートから、月例ハイキングの他、秩父札所巡り全 8 回、日光街道歩き全 18 回を開催してきました。今回の月例ハイキングで、通算１００回目となります。

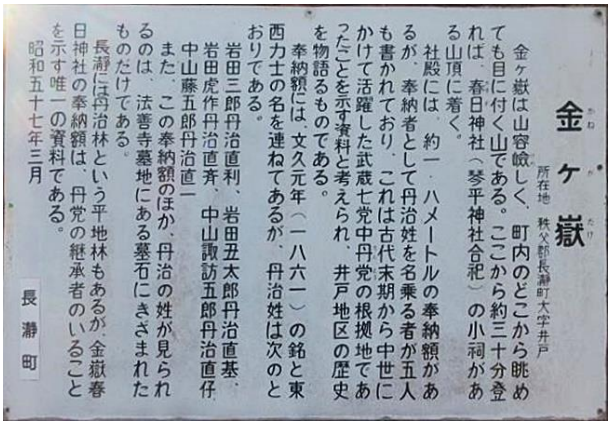
その 100 回目は、野上駅から金ヶ嶽・葉原峠・風布・波久礼駅のコースを 12 月 5 日、8 名で歩いてきました。

野上駅から東側にそびえ立つ山が金ヶ嶽で、昔はこの山で銅（金）を産出していた処から山名の由来のようです。小さな尖った金ヶ嶽を正面に見ながら高砂橋を渡り「春日神社」の鳥居が登山口となります。

（野上駅～スタート）

（高砂橋から金ヶ嶽）

（登山口（春日神社入口））



金ヶ嶽

所在地　秩父郡長瀞町大字井戸

金ヶ嶽は山容峻しく、町内のどこから眺めても目に付く山である。ここから約三十分登れば、春日神社（琴平神社合祀）の小祠がある山頂に着く。

社殿には、約一・ハメートルの奉納額があるが、奉納者として丹治姓を名乗る者が五人も書かれており、これは古代末期から中世にかけて活躍した武蔵七党中丹党の根拠地であったことを示す資料と考えられ、井戸地区の歴史を物語るものである。

奉納額には、文久元年（一八六一）の銘と東西力士の名を連ねてあるが、丹治姓は次のとおりである。

岩田三郎丹治直利、岩田丑太郎丹治直基、岩田虎作丹治直斉、中山諏訪五郎丹治直仔、中山藤五郎丹治直一

また、この奉納額のほか、丹治の姓が見られるのは、法善寺墓地にある墓石にきざまれたものだけである。

長瀞には丹治林という平地林もあるが、金嶽春日神社の奉納額は、丹党の継承者のいることを示す唯一の資料である。

昭和五十七年三月

長瀞町

（金ヶ嶽説明）

（落ち葉の山道を）

春日神社までの山道は樹林帯の中、落ち葉を踏みしめながらも岩石の足元にも注意をして登り45分程で到着でした。

（チェックポイント表示）

（厳しい登りでした）

（春日神社到着）

樹林間から眼下に野上の町並みも見えます。社の裏側に金ヶ嶽の山頂があります。ここから植平峠までは木漏れ日の中を尾根伝いに山道を登ります。左側には小林山（大平山）の山並みも見えます。40 分ほどで尾根上に到着後 5 分程で葉原峠です(野上から風布方面の車道です)。

（金ヶ嶽山頂です）

（木漏れ日の中を登る）

（左側に小林山が）

（細い山道（足元注意））

（案内標識）

（尾根への登り）

（植平峠到着）

（葉原峠到着）

（車道を下ります）

ここから風布みかん山に向かいます。途中、見事な紅葉に出会い集合写真を撮ると共に、Y さんが風布みかん山に「同級生がみかん園をやっている」との話が出ました。そこでみかん狩りをしようと話がまとまり連絡するが電波状態が悪く繋がりません。しばらく歩き再度通話をして了解が得られみかん園に向かいます。

（紅葉が見事です）

風布みかん山集落の中を抜け目的のみかん園に 12 時 40 分到着でした(写真撮影・電話連絡等で葉原峠から約 60 分)。　昼食を摂り、みかん狩りを楽しみました。園内食べ放題ですがあまり食べられません。お土産が有り皆さん満足した様子です。築 200 年以上で歴史を感じる母屋と周りの建物や石垣積み等を見させていただき、記念の写真を撮り下山しました。

（左：みかん山への案内）

（中：みかん狩りチラシ）

（右：風布方面案内）

（左：向かい側には中間平緑地公園が）

（右：風布みかん山集落へ）

（みかん園で昼食）

（みかん狩り）

（みかん園主と共に）

ここからは「日本の里」を通り風布川沿いに波久礼駅へ 14 時 55 分到着です。(昨年 10 月、中間平緑地公園に行ったとき往復した道です)

（風布川）

（寄居橋とかんぽの宿）

コロナ感染者数の減少が続いておりますが、新型コロナウイルス「オミクロン株」が国内初確認されました。今後の動向が心配ですが、各自感染防止対策を徹底しての自衛に取り組んで下さい。

今回は今冬一番の寒さでしたが日中は暖かく、程よい山歩きとみかん狩りを楽しめてよい一日でした。歩数計は約 20000 歩前後の表示、お疲れさま。　次回は 2022 年 1 月 16 日です。

ハイキングクラブ　部長